



香葉

第2号

関東学院女子短期大学

香葉会

発行人 山口 佳子
代表 横浜市金沢区
六浦東1-50-1
直通 045-787-7859
FAX 045-787-0678

E-mail:kouyoukai@nifty.com
URL http://homepage3.nifty.com/kouyoukai/

- 日程 平成16年12月4日(出)
- 時間 午前10時集合
- 場所 関内駅北口(横浜寄り出口)
- 会費 1,000円(資料・保険など)
- 申し込み方法
香葉会事務局までFAX・はがき・Eメールで申し込み下さい。
準備の都合上**11月24日(水)**まで
をお願い致します。
FAX 045-787-0678

香葉会恒例の企画となりました散策です。横浜みなとと言えば、そうそう港町の横浜散策、関東学院の新しい拠点「メディアセンター」も見学コースに入れました。

新しい街と歴史を持った街の趣を楽しみながら、ご家族・お友達：お一人での参加も大丈夫！わが同窓生、わが学びや仲間はとくても楽しいです。是非是非参加して下さいね！



- 日程 平成16年11月3日(水)
平成16年11月20日(出)
- 時間 午前10時30分より午後3時
- 場所 関東学院大学室の木7号館
- 会費 3,000円
- 持ち物 エプロン・お手拭き・昼食
- 申し込み方法
同上
締め切りは**10月20日**まで。

住所(地番)・氏名変更等は会員番号・氏名(旧姓)・学科・卒業年を記入の上、FAX・メール・はがきにて事務局まで連絡下さい。

十一月三日(祝日)：いつもならば「香葉会の部屋」のお誘いをしていく時です。

今年、室の木校地(短大が在った校地)陶芸棟で：わいわいとおしゃべりしながら、土を練って、オリジナルのお皿・コップ：を作ってみませんか。二日間の日程を取って、一日目(十一月三日)は成形、二日目(十一月二十日)は色付けと日程を分けて楽しめます。十一月三日だけの参加はお受けできません。(色付けはお任せ頂く事になります)ぜひ、この機会に参加してみませんか。募集人員は二十名位です。

お誘い

陶芸教室へ

ホームページ開設!

皆様こんにちは
情報化社会という言葉と共に便利?不便?どちらと云っていいのでしょうか、ツール(道具)の時代がやってきました。使い慣れば便利なのは「間違いない!」ということで念願の「香葉会」のホームページができました。

同窓会からのお便り、「香葉会」からのニュース、「参加しませんか」といった呼びかけ等、機を逃さない情報を積極的に載せていますので気軽にいつも見ていただければ幸いです。アイデアもお寄せ下さい。URLは上記(山)

(問い合わせは香葉会まで)

作品展を目指して(?)黙々と絵筆を取っています。一ヶ月に二回(第一・第三水曜日)、ルツ館の二階(香葉会)の部屋で楽しんでいます。先生も生徒も同窓の仲間です。是非、興味のある方は覗きにきて下さい。入会は随時行っております。いつでもいつからでも...!

日本画教室開室中

●目次

会長挨拶	2
報告・称名寺散策	2
吉田人間環境学部長に聞く	3
母校ニュース	3
実体験型取材	4
『期三云』	6
燦葉会支部案内	7
田中順子寮母さんを訪ねて	7
H15年度決算・H16年度予算	8
年会費・賛助金	8

会長挨拶

山口 佳子(国1)



関東学院女子短期大学の卒業生、女専、英文科二部を含んだ人数、即ち「香葉会」会員数は

全国のみならず、海外在住の方を含めておよそ二万九千名となります。そして二〇〇四年三月十七日、最後の卒業生が涙と笑顔で巣立っていきま

ました。五十余年にわたる短大の歴史は幕を閉じ、関東学院人間環境学部への改組転換が完了いたしました。これにより学校は閉じることになりますが、同窓会としての「香葉会」は多彩な卒業生の手でますます発展して参りたいと香葉会のお世話をしている私ども、また「香葉」編集部員は張り切っております。

今年度のホームカミングデーは大学祭の日ではなく七月二十四日のフェアウエルパーティーの日とし、数々の思い出を語り合う場となりました。

同窓会紙「香葉」は発行日を例年の十月一日から九月一日へと早め「企画」「日本画教室」「陶芸教室」等への参加が忙しい時期と重ならないよう早目のお知らせができるよう考えました。

今年の企画は、みなとみらい線が走

る古くて新しいまち『横浜』の歴史的建物や大桟橋、赤レンガ倉庫を訪ねます。陶芸・日本画教室も学生時代のように大学の建物の中でゆったりとしたひとときを味わうことができます。

昨年メールを開設し、住所変更や同窓生からのお便りもいただいています。今年度はホームページを開設しましたので、どうかいろいろとキーを打って検索をしていただけたらと思います。マスコットガールが皆様を「香葉会」へのご案内いたします。またファックス、お電話でも結構ですので、「こんなことをしてみたい」と思うことがありましたら、「ご連絡いただければ幸いです。

今年度からは一切の活動は皆様からの年会費と賛助金でまかなわれることとなります。支出のなかでの最大経費は通信費です。年会費や賛助金にご協力いただきたく重ねてお願い申し上げます。

関東学院は法科大学院の設置をはじめとしラグビー、陸上にとスポーツの面でも発展しつつおあります。横浜関内駅にほど近いところにメディアセンターができました。関東学院大学の公開講座もここでおこなわれています。また、大学の同窓会支部から一緒に活動しませんかといったお誘いもございます。どちらも参加していただければと思います。

オール関東の一員として、今後とも温かく関東学院を見守り、同窓生であることを誇りにしていきたいと考えています。

報告

金沢文庫 称名寺を訪ねて

岡崎 敬子(国7)

平成十五年十一月二十九日(土)午後一時に金沢文庫駅改札口に集合。二十一名の参加者。小雨の中、目指す金沢文庫、称名寺へ。惣門、仁王門をくぐり、正面に朱い反橋、平橋を見ながら左折し、

北条実時(さねとき)の胸像の前を通り、小さなトンネルを抜けるとそこはもう金沢文庫。

金沢文庫は今から七百年前に、北条実時が建てた文庫で、中国や日本の書物と、仕事で使う書類や記録が納められており、元弘三年(一一三三)鎌倉幕府が滅びると、金沢北条氏の菩提寺である称名寺がここを引き継いだそうです。今回は特別展、「雲に乗る神仏(かみほとけ)展」が開催されており、学芸員の方の詳しい解説に耳を傾けながら一同熱心に見学することができました。そこには様々な来迎の姿が描かれており、「弥勒来迎」「地藏来迎」「密教図像集にみる雲と仏」「雲にのる本地仏」「雲にのる神々」等ありました。雲にのる仏では阿弥陀来迎が



最も有名であり、作例も多いのですが、前述のような雲にのる神仏も作られていて、この特別展ではこれらの雲にのる神仏に光をあてているそうです。雲にのるとは、のっている存在そのものが聖なるものであることを示し、雲が漂う時はその場所が、人々の住む世とは異なっていることを示すという。古(いにしえ)の人は大空に浮かぶ雲の存在に畏敬の念を持ち崇めていたことが窺えました。そして神や仏が身近に感じられるひとときでもありました。

先程の道に戻り、称名の晩鐘で有名な称名寺へ。北条実時が居館に営んだ持仏堂から発し、亡き母の為にこれを寺とし称名寺となったという。金沢山称名寺と号し、真言律宗の寺であり、御本尊は弥勒菩薩立像です。子の顕時の時代に発展の一途を辿ったそうです。庭園は鎌倉時代随一という浄土式庭園であり、池を東西に二分する朱い反橋、平橋は雨に打たれ一層その色鮮やかにし、その下には鯉や水鳥が遊ぶ。そして紅葉した银杏の木々が美しい。

心が清浄された清々しい気持ちと親睦を深め、一行は橋を渡り再会を約束して帰路に着きました。

吉田人間環境学部長に聞く

インタビュー 井上 啓子(家26)

*短期大学最後の卒業生が二〇〇四年三月に出ましたが、本当に最後の卒業生を見送られた今のご感想は？



「感無量」の一言です。そして、少し淋しくもあり、役目を果たせたという安堵感もあります。

大人しい感じの学生達でしたが、最後まで短期大学生として学業を全うできたことは、短期大学の先生方の熱意が支えてくれたと感じています。
*人間環境学部の第一回生が三年生になりましたが、学生達の雰囲気はいかがですか？

女子短期大学に男子が入ってきて雰囲気はガラッと変わりましたね。でも違和感無くやっているといます。全体的に素直な学生が多く、挨拶も気軽に交わせる明るい雰囲気は昔と変わらずに息づいている感じでは。

我々人間環境学部の教職員が一丸となり、学生一人一人が「自分さがし」をできるような体制でサポートしていくつもりです。

*ゼミも始まったようですが、吉田ゼミは何人で、研究テーマは？
三年生のゼミナールが始まり、私

のゼミは十名の学生が履修しています。食品の機能性に関する研究を主なテーマとして、ほとんど毎日研究に没頭しています。研究の好きな学生をゼミ受講の条件としていたので、毎日研究で朝早くから夜遅くまでかかってでも文句も言わず、研究の「おもしろさ」が分かってきたようです。
私は学生達のやる気、意欲を満足させる「教育環境」を整えることに、今は力を注いでいます。
*香葉会に期待すること
人間環境学部は短期大学五十余年の歴史があればこそ存在しているものです。短大がルーツですね。香葉会はこれからも生き続けることがとても大事で、人間環境学部を支えて行ってくれるものと考えています。
短大の「二」年間が「四」年間になっただけと考えていただきたくですね。受け継がれてきた精神は脈々と流れています。それは「愛校心」です。香葉会の先輩諸氏が残してくれた「母校を大切に思う心」をこれからも持ち続けていただき、人間環境学部へのご協力と理解を期待します。

*インタビューを終えて

吉田先生は授業と公務で分刻みのスケジュールの中、時間を割いてインタビューに応じてくださり、気さくに、どちらかといえば男っぽく(?)応えていただきました。中でも教育論、教育環境の話になると、ますます熱く学生と大学への思いを話して

下さいました。

香葉会に対しては「これから経済的には大変になるだろうが、精神的に応援して欲しいし、卒業生がそれぞれの立場で活躍してもらえることが、人間環境学部を支えて行くと考えている」と香葉会の置かれた環境を考慮して、エールを送ってくださいました。

忙しいけど新しい学部として三年が経ち、完成年度へ向けて更なる目標を持って毎日を送れることに幸せを感じているヨ、とお話していただいた横顔が印象的でした。吉田先生、ありがとうございました。

母校 ニュース

▽さようなら、また逢いましょう！

女子短期大学フェアウエル・パーティー開催
去る七月二十四日(土)午後二時



から、人間環境学部エテルニテ四階において「短期大学フェアウエル・パーティー」が開催されました。これは二〇〇四年三月に復学者

数名が卒業したことにより、女子短期大学の閉学が正式に決定したことを受けて、元短期大学教員親交会の先生方が中心となって計画されたものです。

有志による開催であることを考慮し、香葉会は独自に元年度委員の皆さんを中心にご案内させていただきました。全員の方にお知らせすることが出来ず、大変申し訳なく思っております。なお、大学祭当日には「陶芸教室」(一面でご案内)を開催し、秋の一日学生時代に戻っていたきたいと思います。

「さようなら、でもまた逢いましょう！」という想いと共に、人間環境学部の発展を祈りました。

▽短大の先生方は今 パートⅡ

昨年この母校ニュースでお知らせした先生方の現在について、特約教授の先生方についてご報告しておりませんでした。
大変申し訳ありませんでした。お詫びしてご報告いたします。

- 人間環境学部現代コミュニケーション学科 徳永 透先生
- 人間環境学部健康栄養学科 和田 淑子先生
- 人間環境学部人間発達学科 犬木 瑛子先生
- 人間環境学部人間環境デザイン学科 中田 弘良先生
- 折橋 徹彦先生

実体験型取材
2004

『憧れのキャンパスライフ』

釜利谷キャンパスを訪ねて

浦上 恵 (経情10)

よく晴れた入梅直前の土曜日。眩しくて目を細めてしまうような日差しが溢れ、清々しい風が吹き抜ける高台の上。金沢文庫からバスに揺られること約一〇分。行ってきました釜利谷キャンパス。前回の小田原キャンパス訪問に次ぐ第二弾ということで、今回は「文学部」にお邪魔してきました。

バスを降りて、学校の門をくぐる



ンク色を見せてくれるでしょう。その光景が目には浮かぶよう。そんな木陰をテクテクと歩いて行くと、左手に校舎が。そして右手には、思わず声を上げてしまうほど広いグラウンドが姿を現しました。スタンドがあることから、それがラグビー場として使用されていることが容易に想像できました。

そう、ここ釜利谷キャンパスは、日本一のラグビーチームがホームグラウンドとしていて、ところどころでもあります。よく手入れされた芝は、まるでフカフカの絨毯のようで、それを撫でるように吹き抜けていく風がとてもし心地よく、緑色の芝をキラキラと輝かせていて、思わず寝転びたくなってくるのです。最初に目にしたその見事なグラウンドに一同心を奪われ、各々その空気を楽しんでおりました。

ここ文学部は、「英語英米文学科」、「比較文化学科」、「現代社会学科」の三学科で構成されています。そして、今回、最も心惹かれた学科は「現代社会学科」。「現代社会学科」では「社会学」と「社会福祉学」の二つの分野を学ぶことが出来るそう。



お恥ずかしい話ですが、関東学院に「社会福祉学」を学べる学科があることを存じ上げなかった私、激しく感動しました。あまりの感動に、突撃で「社会福祉実習室」にご迷惑を承知で入室させていただきました。

そこで伺ったのですが、「社会福祉士」の資格取得の為に、学生たちは沢山のことを学び、そして色々な施設へ現場実習へ出向きます。そこで吸収してきたことを糧に「社会福祉士」への道を歩んでいくというわけです。実習室の壁には、福祉系のアルバイトや、ボランティア、就職案内などの募集要項がたくさん貼られています。社会福祉学を学んだ学生の半分はやはり将来的にそういった方面へ進んでいくそうです。高齢化が心配されるこれからの日本にとって、最優先で発展させて行かなくてはならない分野。彼らがその重要な役割を勤めてくれることを切に願います。がんばれ!!

お仕事中にも関わらず、ワラワラと入っていた私たち編集委員一同に、やさしく丁寧に対応してくださった石山さん(アシスタント・院生)に

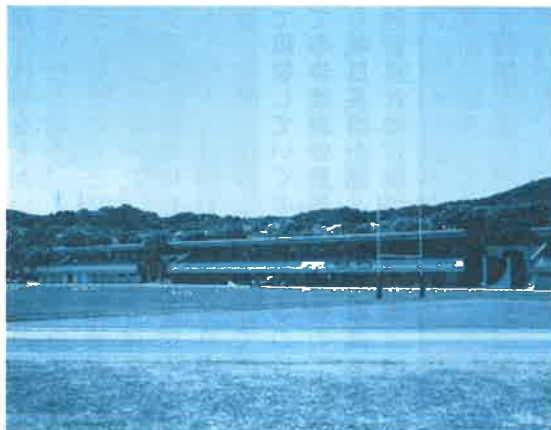
心から感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。

さてさて。土曜日ということもあって、授業もいっつか行われているようでしたので、静かに、校舎内の見学を進めて行きます。ぱっと見て、講義室よりも教室レベルの部屋が多いように思います。そして語学学習施設「AV ROOM」(LLの講義などに使用)、パソコンやインターネットなどの使用を目的とした「PC演習室」など、他のキャンパスに負けない設備が充実しています。

ぐるっと校舎内を見学して、最後に大発見!以前短大の視聴覚室前にあった兵藤先生の奥様寄贈の絵画が、この釜利谷キャンパスに変わらないうまいで展示されていました。なんだか懐かしくて、うれしくなっ



まった。繋がってるんだってという気がして…。

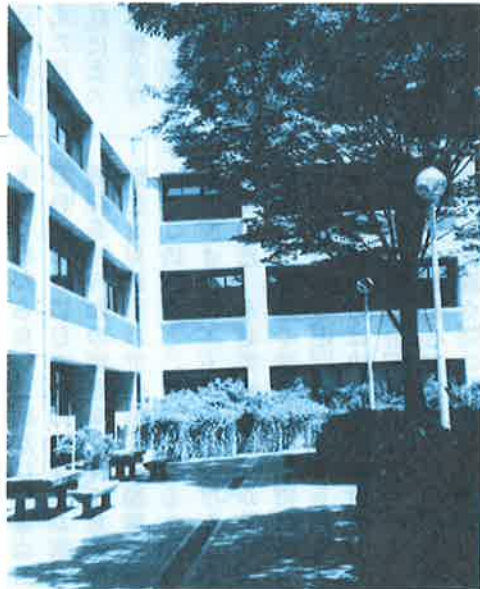


一巡りした健康なワタシ達のお腹は、正確にエネルギー補給を求めてきます(笑) 今回も味わいますよ、学食ノ土曜日でもランチがあるこの有難さ。そして思わず泣きたくなってしまふような値段(安いっスッノ感涙)、そして美味しいノ文句ありません。ハイ。

てる。この抵抗なしに馴染めるキャンパスの雰囲気、すごくいいと思いませんか? 地域にも愛されてるっていうカンジ。なんだか微笑ましい光景に、お腹も心も満腹となりました。

食後の運動に、少しはなれた野球場まで足を伸ばします。ここ釜利谷キャンパスは、敷地の殆どがスポーツ施設。広いグラウンドには褐色のトラックもあり、野球場は立派なスタジアム作り。そしてテニスコートもあって、もちろん体育館も。そして緑ノとにかく見渡す限りのこの豊富な緑に、心も癒され、それはそれは素晴らしいキャンパスライフが送れることでしょう…。まさに、ドラマで描かれるような憧れのキャンパスライフを想像させます。まあ、実際は、課題レポートに実習に…。めまぐるしく過ぎ去っていく四年間を、一人一人が夢中で走っているフォームが、この日の日差しのように眩しく、目を細めてしまうほどでした。少し、言いくいことですが、この釜利谷が一番「学んでいる」という強い印象を受けたキャンパスでした。

ランチを夢中で食べ終え(笑)、ふゥ、と一息ついていると、目に付いたのは学生以外の家族連れ。それも慣れた雰囲気みなさん食事をし



たり、現実とのギャップに泣きたくなるような結末を迎えることが多いと思います。でも、そのときに抱いていた夢や希望のおかげで、今の自分があるのだとも思うし、ひょっとしたら今はその夢への通過点に過ぎないのかもしれない。これからもっと大きな夢や希望が沸いて来るのかもしれません。まだこの先が、続きが、自分の人生にはズーッと繋がっていくのだということを思いました。ムダなことなど何一つない、吸収できることを出来る限りたくさん自分の中に詰め込んで、引き出しを一杯にする。ギューギューに。そんなことが、この釜利谷キャンパスでは出来るような気がしました。

オリーブの会

村岡 愛子(家12)

平成十五年十一月十六日(日)の午後、横浜そごう十階「桃源」にて開催。卒業して四十年。鳥越先生も御元気で久しぶりに御出席下さいました。当時の事をしっかりインプットしていらして私達も嬉しく、感服です。卒業以来の大久保さん、脇山さん、鈴木洋子さん(京都在住)、久し振りの柴田さん、竹山さん、小川さんと二十八名の出席で華やかで賑やかな会になりました(旧姓でごめんなさい)。港が臨め、ベイブリッジが目の前で眺めの良い場所で最高の了。次回も又沢山の方々が集まり、楽しい会になります様に。幹事さんご苦労様でした。



関東学院大学公開講座へ
ご参加下さい
詳しくはホームページで



『一期三会』

A to Z 闘牛・空
(BULL FIGHT SORA)

江本 敦子 (英48)



人が英語を使うのだから私の興味は世界に広がった。

短大に在籍した二年間、私はとにかく学生の間にできうる限りのことをしたかった。こんな

私は昔からプロレスが好きでプロレスラーになりたかったわけではない。むしろ毛嫌いしていた方だった。短大の英文科に入学した時は、就職希望先にプロレスという選択肢はなかった。ただ当時から体型と風体だけはプロレスラー並みであったけれど…。

短大に入った当初の目標は留学することだった。将来は世界を股にかけて仕事をしたいなんて漠然と考えていたと思う。この頃は本当に英語が大好きで、とにかく英語を学ぶことが楽しかった。高校まではテストや受験のためにしてきた英語の勉強が、短大では自分の血となり肉となり、実際に使うことができて、自分で吸収していくのがわかるのは、とてもやりがいがあった。そして何より私は英語を通して見える異文化に魅せられた。映画の中のちょっとした一言から汲み取れる文化の違い、言語の組み立ての違いから感じ取れる概念の違い、学ぶほど英語が好きになった。なにより世界中で多くの

にも自由に誰にも気兼ねなく、自分のしたいように出来る時間を持てるのは、大学生の間だけだと思う。そしてこの頃私は今も続いている一つの信条を作った。「一期三会」。一会ではなく三会。日本はもとより世界中にいるより多くの人と出会い、自分のことを知ってもらい、そして友達になること。それも一期一会なんて寂しいことじゃなく、一度会った最低でも三回は会おう!という意味。短大時代にこの「一期三会」のきっかけになったのは学友会に入ったこと。おかげで学部を超えた友達が出来て、その関係は今でも私にとって貴重なものだ。学校外では様々な国際交流事業や、国内外のボランティア活動に参加した。世代、国を超えて本当にたくさんの人と出会い、様々な価値観を吸収した。今考えても本当に濃い充実した二年間を過ごせたと思う。

でも、それではあきたらなかつた私は、結局留学も就職もせず、海外放浪の旅みたいいな生活を始めた。そして短大を卒業して一年も経とうとしていた九九年正月、タイの山奥で山岳民族の学生寮作りのボランティアに参加していた私はハタと気付いた。電気もガスもない山奥で私は文明がないと実に無力な人間だということを感じ知った。それまで色々としてきたけれど、私は手に職を持っていないではないか。その時、私の頭に浮かんだ職業は酪農業だった。どんなにエラくとも、どんなに金持ちでも、私達は食べ物がなくては生きていけないのだ。このままではいかんと思ひ、帰国した二月さっそく真冬の北海道へ渡った。就いた仕事は乳搾りだった。この酪農との出会いは私の人生において生命の尊さを教えてくれた貴重な体験となった。最初は半年だけの予定だった北海道生活は結局二年ほど続いた。

話が長いが、それからなぜプロレスラーになろうと思ったのか自分でもよくわからない、何かに引き寄せられるようにしてこの頃プロレスに興味を持ったのは確かだ。でも生で試合を見たわけでもなく、酪農で鍛えたこの体がどこまで通じるか知りたくてオーディションを受けたのが実の話だ。そして実際に受かり、今に至る。プロレスに行くまでは成り行きだったけど、デビューして今も続いているのは決して成り行きではない。私の場合、最初はやってみたという好奇心で入団したが、それは本当に瞬く間に好きという気持ち

に変わり、叶えるべき大きな夢となった。私が今こうしてリングに立っているのは「一期三会」の約束を果たすためでもある。遠く離れていても疎遠になっても今までそしてこれからも出会う人に自分のことがわかるように輝いていたいから。そしていづれは海外の友達にも私のことがわかるようにもっともっと輝けるように頑張っていきたいと思う。

編集後記

「ここから出発します」これはフテウエル・パーティーでの山口会長の言葉です。

短期大学は二〇〇四年(平成十六年)に閉学の手続きをいたしますが、関東学院女子短期大学を巣立ち、各家庭、各界で活躍している卒業生二万九千名を数えます。書類上の名前が消えても、卒業生は毅然として「関東学院女子短期大学」を誇りに生きていくことしよう。

私達役員は、卒業生一人ひとりが短期大学で学んだことを心の支えとするように、「香葉会」という名前を大切に「香葉会」を必要としてください。一人でもいる限り、これからも「香葉会」として歩いていきたいと思っています。

人間環境学部の第一回生は現在三年生になりました。名前は違ってもかわいいう子、甥っ子たちです。温かく見守ってほしいと思います。

さてさて、新生「香葉」の第二号はいかがでしたでしょうか?若い会員と先輩諸姉の活躍で心強い紙面となりました。ホームページもスタートさせることができました。今までも、そしてこれからも会員皆さんの支えだけが頼りです。どうかご支援賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

またお会いしましょう、と心に誓った二〇〇四年。そしてここからそれぞれの「出発」をいたしましょう!

幹事長 井上 啓子

燦葉会支部のご案内

オール関東の名の下に、大学の同窓会である燦葉会の支部担当者から香葉会の皆様に「全国にある支部の集いに是非、参加を」とのお誘いがありました。各都道府県（神奈川県は細分化された）支部になっています。同窓という温かな集いに、おひとりでも参加できます。詳しくは各支部長に電話にて確認をして頂くと、幸いです。香葉会事務局・燦葉会事務局（045-784-0310）でも対応致します。よろしくお祈りします。

地方支部紹介

支部	事務代表者名	科名/回数	郵便番号	住所	電話番号	勤務先電話番号
北海道支部長	塩田 彦隆	(経済17回)	060-0807	北海道札幌市北区北7条西6-1-1103	011-737-4164	
青森県支部長	横澤 正信	(経済8回)	039-1161	青森県八戸市河原木根岸46	0178-28-3919	0178-44-0734
岩手県支部長	藤川 訓主	(経済15回)	020-9117	岩手県盛岡市緑が丘2-9-48	019-662-2721	019-662-1288
宮城県支部長	根津 洋助	(電気11回)	981-3102	宮城県仙台市泉区向陽台5-11-1	022-373-4818	022-296-2111
秋田県支部長	小棚木 十二	(土木9回)	010-0041	秋田県秋田市広面板橋添301	018-834-7849	
山形県支部長	上野 富次郎	(建築15回)	990-2332	山形県山形市飯田5-22-22	023-642-3643	023-622-4934
福島県支部長	遠藤 保二	(経済19回)	990-0678	福島県伊達郡保原町字京門17-7	024-575-3855	024-575-2126
栃木県支部長	白輪 征一	(経済16回)	990-0021	山形県山形市小白川町4-27-7	023-641-5301	
群馬県支部長	石山 力	(建築4回)	371-0801	群馬県前橋市文京町3-2-10	027-221-2265	027-224-1751
茨城県事務局	小川 毅	(土木22回)	311-4145	茨城県水戸市双葉台1-22-8	029-252-3264	029-224-1111
埼玉県支部長	内田 義晴	(電気6回)	337-0051	埼玉県さいたま市見沼区東大宮3-8-12	048-666-3608	
千葉県支部長	川島 昌幸	(建築19回)	260-0005	千葉県千葉市中央区道場南1-4-5	043-222-0872	043-245-5111
東京都支部長	高田 喜八	(経営2回)	243-0803	厚木市山塚987-2	046-245-3823	046-228-8960
湘南支部長	穂山 孝	(機械10回)	251-0002	藤沢市大鋸1088-2-301	0466-23-7848	0466-23-7848
西湘小田原支部長	坂本 元旦	(土木7回)	250-0876	小田原市中新田269-1	0465-48-5861	0465-23-3542
三浦半島支部長	平泉 忠廣	(化学?回)	240-0114	三浦郡磯山町木古殿632-16	046-878-8730	046-822-1651
横浜港南支部長	小塚 基	(建築16回)	234-0051	横浜市港南区日野2-12-34	045-843-8058	045-715-2279
横浜南支部長	平松 利彦	(経済11回)	232-0052	横浜市南区井土ヶ谷中町75	045-715-2921	03-3433-7488
横浜金沢支部長	金谷 一郎	(土木5回)	236-0012	横浜市金沢区柴町132	045-701-8481	
横浜磯子支部長	矢澤 方茂	(経済12回)	235-0033	横浜市磯子区杉田8-10-9	045-774-5531	03-3254-2651
横浜戸塚支部長	渡邊 肇	(経営1回)	245-0051	横浜市戸塚区名瀬町2097	046-811-1431	
長野県支部長	金沢 嘉成	(経済8回)	380-0936	長野県長野市岡田町84	026-228-2643	026-226-5222
新潟県支部長	石森 邦彦	(経営1回)	953-0104	新潟県西蒲原郡岩室村大字岩室340-甲	0256-82-4125	0256-82-4126
富山県支部長	峰澤 弘	(江幹2回)	937-0806	富山県魚津市友道642	0765-22-6262	0765-22-2343
石川県支部長	大野 俊夫	(経済18回)	920-0831	石川県金沢市東山2-25-36	076-252-4551	076-221-1863
東海支部長	上林 睦雄	(機械4回)	444-3505	愛知県岡崎市本宿町一里山24	0564-48-6116	
静岡県支部長	穀野 勝利	(建築11回)	420-0881	静岡県静岡市北安東5-50-4	054-246-5100	054-252-6887
京都支部長	中村 誠一	(経済10回)	625-0067	京都府舞鶴市森本町28-3	0773-62-0254	0773-76-6167
関西支部長	心村 心	(土木13回)	680-0046	大阪府松原市三宅中5-14-26	072-331-3156	072-334-8840
広島県支部長	源 孝	(社会6回)	735-0006	広島県安芸郡府中町本町2-16-19	082-285-2662	082-281-1649
山口県支部長	中元 親文	(経済14回)	755-0241	山口県宇部市東岐波横尾山1196-90	0836-58-6451	
徳島県支部長	佐藤 太平	(機械10回)	770-0011	徳島県徳島市北佐古一番町1-30-3	088-631-1066	088-653-2268
香川県支部長	三好 一弘	(経済15回)	760-0006	香川県高松市亀岡町3-11	087-831-4026	
愛媛県支部長	山内 孝二	(経済16回)	789-2652	愛媛県松山市福角町甲329-1	089-979-4445	089-979-4445
高知県支部長	窪田 勝茂	(土木11回)	780-0981	高知県高知市一ツ橋町2-87	088-823-0898	088-844-2113
福岡県支部長	加藤 聖三	(経済6回)	800-0258	福岡県北九州市小倉南区安部山13-1	093-922-0600	093-521-4792
長崎県支部長	今井 薫	(建築16回)	857-0804	長崎県佐世保市松川町9-8 柳葉江建設内	0956-24-8027	
熊本県支部長	坂田 勝彦	(経済17回)	862-8003	熊本県熊本市楠1-14-15	096-338-6483	096-339-0949
大分県支部長	梶尾 善吾	(機械8回)	874-0842	大分県別府市小倉1-2	0977-21-9188	
宮崎県支部長	志多 克彦	(土木11回)	880-0816	宮崎県宮崎市江平東1-7-29	0985-26-1808	0985-24-6487
鹿児島県支部長	小久保敏孝	(建築8回)	890-0056	鹿児島県鹿児島市下荒田2-10-11	099-256-2226	09952-6-0001
沖縄県支部長	宮城 吉夫	(土木8回)	903-0804	沖縄県那覇市首里石嶺町74-395	098-885-5490	098-879-5016

女専英語科二回卒同窓会

前納 順子(女専英2)

夏を思わせるような日ざしの五月、晴れの五月二十六日、私達は馬車道の相生本店で、同窓会をもちました。アメリカから同級生連二人が、お里帰りされたので、急ぎよ電話連絡で十三名程が集まりました。卒業してからもう半世紀もたつのに、(昭和二十五年卒)何かあるとサツとみ

なが集まるといふことは、夫々が健康と日々の生活に恵まれているからだと思ひ、神に感謝致します。そして又、「真鶴」の飯吉さんが同級生のおかげで、何時でも場所をお手配頂けることは、本当に有難く思っています。

私達女専は、三回生までしかなくあとは短大になってしまったので、卒業生の数も少なくて現在の学生の方の中には、女専のあったことも御存知ない方がいらっしやるのではな

いでしょうか。でも、今では学院の名物の一つになっているシェークスピア英語劇、現在は立派な劇場で公演がありますが、学院史資料室ニューズレターNo.4の中で小玉名誉教授が、書かれてるように、私達が三春台の校舎の体育館で、タツピング先生、光畑先生のご指導のもと始めたものです。かび臭い衣装を俳優座から借りたり、台詞を丸暗記したりして、でも一生けんめい演(や)りました。

又、当時学生として学外であまり

やれることがなく、手軽に出来るダンスパーティーが大学生の間ではやっていました。女専の人達にも出席して欲しいと宣伝を頼まれ、男女が踊っている姿を「スラー」ばりに点描の影絵で画いたポスターをはったら、キリスト教の学校にふさわしくないと叱られました。

戦後間もない貧しいけれど希望と活気にあふれた好き時代でした。

女専二回卒、英語科四五名。内九名は天国に召され、七名はアメリカ在住ですが、冷暖もない窓ガラスの破れた三春台の校舎で、関東学院生として誇りをもって学んでいたことを、なつかしく思い出します。

何年たっても、三年間一緒に過ごした御仲間のお顔に接すると、スツと学生時代にもどっている感じが走馬燈のように心に浮かびます。年を重ね喜寿も近い私達ですが、心は何時もう青春です。

田中順子寮母さんを訪ねて

七月十日、高崎駅に集合。参加者十一名で天田明美さんの嫁ぎ先慈眼寺を訪ね。ご住職のユーモアたっぷりのお話を聞き、夕方にはホテルで会食。三十年以上の空白を越えて、話はずみませんでした。寮母さんをはじめ、若々しく、美しく、それぞれいい人生をすごされている様でした。翌日は、寮母さんのお住いを訪問。

平成15年度 関東学院女子短期大学香葉会 決算案 (平成15.4.1~平成16.3.31)

Table with financial data for the 15th year of Heisei, including income and expenditure sections with columns for H15 actuals and H16 forecasts.

平成十五年三月の卒業生の会費を最後に、香葉会の会計は皆様の年会費・賛助金をたよりに頑張ってきたと思っております。年間にかかる費用の多くは、機関紙『香葉』の印刷・発送にかかります。二万三千名に発送をしています。年会費・賛助金をお送り頂きますと機関紙『香葉』も長く続けられると思います。是非、ご協力をお願い致します。

平成十五年年度決算・平成十六年度予算



四方山に囲まれ桃源郷の様な所で。た。久々に旧交を温め、現実を忘れた二日間でした。

角野 いつ子 (英文22)

七月二十四日。田中順子寮母さんの古希のお祝いを兼ね群馬県の伊香保温泉で昭和五十一年三月卒業寮生

の同窓会を開催しました。当日は北は山形、南は和歌山までの七県から十名が集結し再会は愛称の連呼で始まりました。寮母さんが皆の名をスムーズに呼ばれた時には二十八年のブランクは一瞬にして埋まり寮で過ごした二年間が、どんなに貴重で大切なものであったかを痛切に感じました。寮母さん!! みんな!! 素敵なお時間をどうもありがとうございます。水口 瑞代 (国文9)

年会費・賛助金 納入者名簿

昨年度より開始致しました年会費は皆様の志により賛助金と合わせて、七二八、二五〇円の収入と成りました。香葉会の会費として使わせて頂きます。皆様のご協力に感謝しますと同時に、今後ともよろしくお願致します。(順不同・敬称略)

- List of names categorized by department: 一般 (General), 女専 (Women's Special), 英文 (English), 国文 (National Language), 家政 (Home Economics), 経情 (Economics/Management), 幼教 (Early Childhood Education).